

2023年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

快晴の鈴鹿サーキットで行われた2023鈴鹿サンデーロードレース第2戦
HRS鈴鹿Motoクラス アドバンスコース生2名が表彰台を獲得!

5月20日(土) 公式予選 10:40~11:00 ◎天候・路面:Fine/Dry

#21 岡田陽大 3位/2'24.399 #8 竹本倫太郎 8位/2'25.855
#11 遠藤翔類 15位/2'28.248 #12 豊田哲慎 19位/2'28.807
#67 中谷健心 24位/2'33.759

予選が行われた土曜日、鈴鹿サーキットは朝から雲一つない好天に恵まれ、初夏を思わせる陽気となった。午前10時40分、20分間の予選が始まると、5名のHRS鈴鹿Motoクラス アドバンスコース生らがいっせいにコースイン。だが予選開始早々、トラブルが発生したマシンがコース全域にわたりオイルを出してしまい、このオイルに乗った#67中谷健心、#12豊田哲慎が転倒し、転倒車の撤去とオイル処理のために赤旗が提示された。

オイル処理が終わり予選が再開されると、アドバンス生は混乱を避けて集団の後方からコースインしていく。#21岡田陽大が5周目に2'24.399を記録し、翌週のセクター1では最速のタイムを記録してさらなるタイムアップが期待されたが、その直後、ターン7で転倒。グリッドは3番手となった。#8竹本倫太郎は2'25.855で8番手、#11遠藤翔類が2'28.248で15番手、転倒によりマシンを修復して走った豊田は2'28.807で19番手、中谷はマシン修復に時間がかかったためにわずか3周しか走れず、24番手という結果で終わった。

5月21日(日) 決勝レース(フルコース10周) ◎天候・路面:Fine/Dry

#21 岡田陽大 総合3位/ナショナル1位/NSFチャレンジ1位
#8 竹本倫太郎 総合8位/ナショナル3位/NSFチャレンジ4位
#11 遠藤翔類 総合12位/ナショナル6位/NSFチャレンジ7位
#67 中谷健心 総合16位/ナショナル8位/NSFチャレンジ9位
#12 豊田哲慎 リタイア

前日同様、初夏の陽気の中で迎えた決勝。1列目3番手スタートの岡田はスタートでポジションをひとつ落とし、4番手で1コーナーへと飛び込んでいく。岡田が3番手争いのグループで周回を重ねる中、その間にトップグループはさらに先行し、差はどんどん開いていった。それでも岡田は4番手の位置をキープし、ラストラップのヘアピンで3番手に浮上。食い下がる4番手を抑え切り、総合3位、ナショナルクラス1位でゴールした。

7列目19番手スタートの豊田は、オープニングラップで10台を抜き去って9番手の位置にまでポジションを上げると、ラップを重ねるごとにポジションを上げていく走りを見せる。そして7周目、ナショナルクラスの表彰台圏内となる6番手にまで浮上するが、直後のターン7で転倒してリタイアとなってしまった。8番手スタートの竹本は序盤ペースを上げられず、集団に飲みこまれてしまったが、ラストラップで8番手に浮上し、そのままポジションを守り切り、総合8位、ナショナルクラス3位でフィニッシュした。

遠藤はレース序盤、予選の順位と同じ15番手前後のポジションを走るが、レース終盤にポジションを上げて総合12位でゴール。第1戦でナショナルクラスを制した中谷は序盤でポジションを大幅に上げたものの、レース中盤以降のペースが思うように上がらず、総合16位という結果となった。

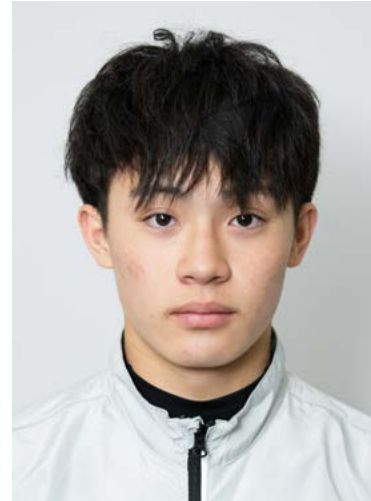


2023年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス:予選3位 決勝総合3位(ナショナル1位/NSFチャレンジ1位)

岡田陽大(おかだひなた) 15歳

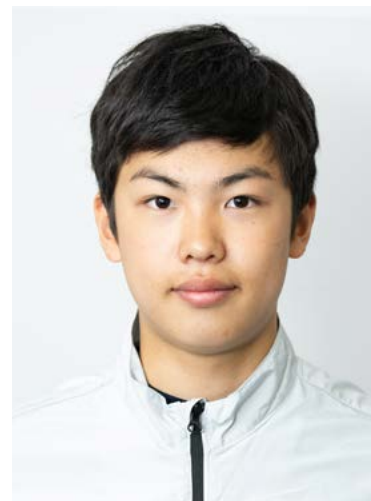
『自分自身のベストタイムは2'21.7ですが、今回の予選では2'24.3というタイムで、あまりにも差がありました。路面コンディションが悪かったということもありますが、自分自身の速さも足りていませんでした。決勝でも自分のペースで走ることが出来ず、前のライダーのペースに乗ってしまいました。とはいえ前回はこういった状況で焦りすぎていましたが、今回は冷静に考えて走ることができました。しかし、予選と同様にスピードが足りていませんし、思い通りに走ることもできませんでした。次のレースまでにはかなり時間があるので、その間は日々のトレーニングやバイクへの向き合い方など、もっと貪欲に取り組んでいくつもりです。まずは毎朝30分早く起きてランニングするつもりです』



ナショナルJ-GP3クラス:予選8位 決勝総合8位(ナショナル3位/NSFチャレンジ4位)

竹本倫太郎(たけもとりんたろう) 14歳

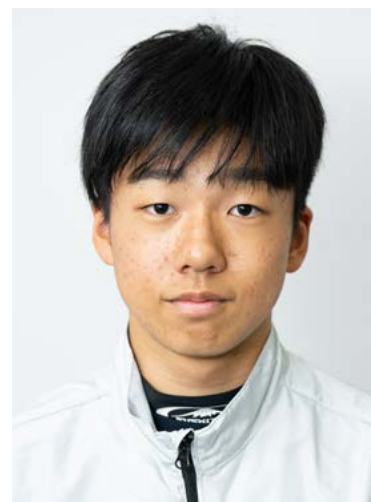
『予選では赤旗が出ましたが、再開後は何とか気持ちを入れ替えて走りました。自分は1コーナーやスプーンの処理がまだまだですけど、前回よりは良くなり、自己ベストに近いタイムも出せました。決勝ではなかなかペースが上げられず、集団についていくのが大変でしたが、なんとか最終ラップで先行車を抜くことができました。あきらめずに集団についていけたのが良かったですが、ペースをすぐに上げられなかったところが悪かった点です。後方からスタートした豊田哲慎選手に前に出られ、ついて行くことが出来なかったことも悔しいですね。先生方からも指摘を受けているんですけど、ペースをいかに早く上げるかということが今後の大きな課題だと思っています。そして1コーナーのブレーキング、1コーナーから2コーナーにかけての処理、スプーンの処理ももっと良くしたいです』



ナショナルJ-GP3クラス 予選15位 決勝総合12位(ナショナル6位/NSFチャレンジ7位)

遠藤翔類(えんどうかける) 14歳

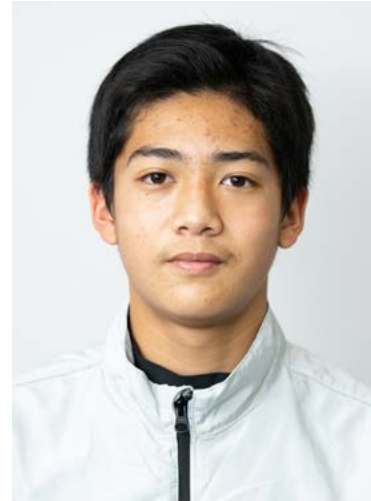
『(予選での)赤旗中断が初めての経験で、気持ちをうまく整理できず、タイムもベストの約2秒落ちでした。決勝ではスタート後に数台に抜かれ、前を走る集団についていくことが出来ませんでした。前走車をパスする技術もまだまだ足りていませんでした。まずはスタートを良くしたいです。シグナルの反応速度がまだまだ足りていません。良かった点としては、全体のスピードを上げられるよう、アクセルを閉じている時間を減らすことを意識できた点だと思います。トレーニングへの姿勢がまだまだ甘いと思っているので、次のレースに向け、トレーニングに対する考え方、たとえば時間の使い方やルーティンの内容など、もう一度考え直したいと思います』



2023年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

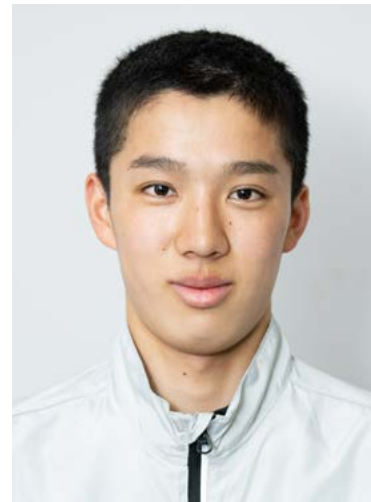
**ナショナルJ-GP3クラス:予選24位 決勝総合16位(ナショナル8位/NSF
チャレンジ9位)**
中谷健心(なかたにけんしん) 15歳

『ウィークに入る前の練習走行で、雨の中ハイサイドで転倒して手首を痛めてしまったんです。また今回は予選でも転倒してしまい、気持ちが弱くなってしまいました。また自分自身の走りが雨の走りになっていて、ドライの感覚に戻すことが出来ないままの予選でした。決勝を振り返ると、少し慎重になりすぎでした。今回のレース結果は、技術もですが、気持ちの部分も大きいと思います。自分のいいところや悪いところだったり、出来ること、出来ないことに対する自分自身での理解もまだまだ足りていません。練習に取り組む態度も甘かったというしかありません。自分自身の弱点を、練習やトレーニングの時に、今まで以上に意識して克服するように取り組まないとダメだと思いました』



ナショナルJ-GP3クラス:予選19位 決勝リタイア
豊田哲慎(とよだてっしん) 16歳

『前回の予選では集団に飲まれてしまったので、今回はピットアウトするタイミングを見極め、順調に走り出せました。…ですがこれからというときにオイルに乗って転んでしまいました。再開後のタイムは2分28秒しか出せず、(転倒の影響で)少しビビっていたんだと思います。決勝は気持ちを入れ替え、前向きな気持ちで臨みました。1周目に10台をパスしましたが、その後に追いついた選手を抜くのに手間取り、バトルしてしまったのが良くなかったです。転倒してしまったのは、残りのラップが少なくなり、焦りが出てしまったからだと思います。もっと落ち着いて走るべきでした。今回に限らず、前回のレースもですが、自分は予選の結果が悪すぎるのが大きな課題です。コースがどんなに悪い状況でもいいタイムを出せるようでないダメだと痛感しました』



2023年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

上田昇 Instructor

『赤旗が出た予選は難しかったと思います。特に1年目の生徒は予選が赤旗で中断になるということは初めての経験で、メンタルのスイッチをもう一度入れるという作業の難しさを経験することになりました。決勝中に自己ベストを更新したのは竹本倫太郎ひとりだけで、それ以外のライダーは足踏みしている感がありました。全員スピードが足りていませんね。速くなる方法論は教えています。その方法論をそれぞれが自分なりに噛み砕き、自分の走りに取り込むことで、全員が足踏み状態から脱却してさらに伸びてくれるはずですよ。今回は岡田陽大がナショナルで1位でしたが、タイムは最終ラップでやっと2分24秒フラット。しかし彼は昨年21秒台を出しているんです。今回のウィークに入るまで、彼は転倒が多く、本人的にはまず完走を念頭に置いていたと思います。決勝でも集中して走れたようですし、その点は評価できますね。豊田哲慎は今回転倒してしまいましたが、あの転倒はミスではないです。そもそもスタートが後ろ過ぎでした。彼が想定している決勝タイムを出すためには、スピードがまるで足りておらず、その点は本人も自覚していると思います。岡田、豊田の2名には実践的なテクニックや考え方、コースの攻略法などをキッチリ教えていて、それを自分のものにしないといけない段階です。我々はさらなる伸びを期待していますし、伸びて当然だとも思っています。レーシングライダーの世界は厳しい世界ということを認識し、パフォーマンスをさらに上げてほしいですね。1年目の生徒たちには、先月まではNSFというバイクと、HRS鈴鹿Motoアドバンスという環境に慣れることを優先して指導してきました。今月からはレーシングライダーとしてのTIPSを教える段階に入っており、これからの伸びに大いに期待したいですね』

